

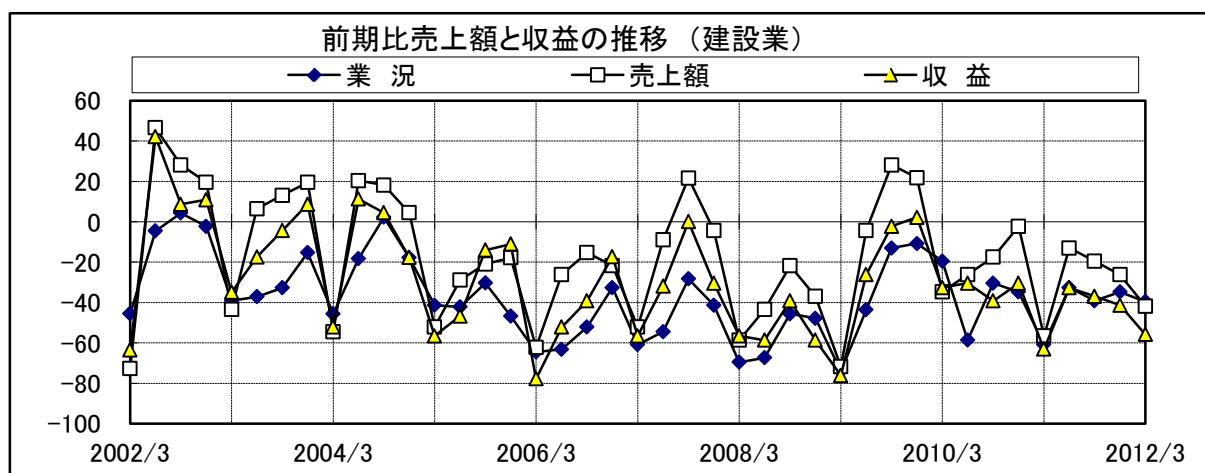
建設業 43 企業（回答率 97.72%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
業 況	-39.1	-34.8	-39.5	-51.2
売上額	-19.5	-26.2	-41.8	-23.2
収 益	-36.9	-41.3	-55.8	-32.6

今期の業況判断DIは $\Delta 39.5$ と、前期比4.7ポイント下降した。地区別にみると、三石地区で上昇し、浦河、静内、えりも、広尾地区で下降している。類似地区は横ばいとなった。

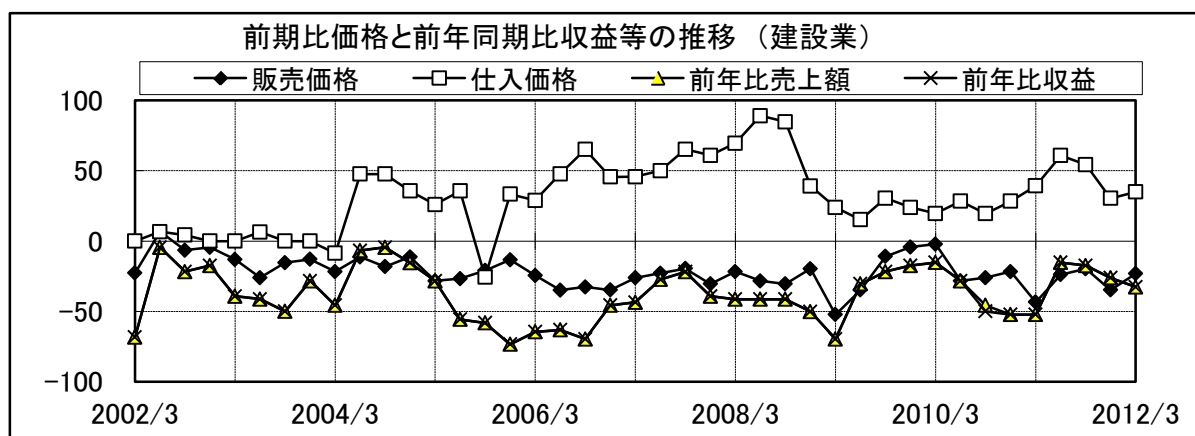
売上額判断DIは $\Delta 41.8$ 、収益判断DIが $\Delta 55.8$ と、前期比それぞれ15.6、14.5ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
請負価格	-19.6	-34.8	-23.2	-11.6
仕入価格	54.3	30.4	34.9	27.9

請負価格判断DI $\Delta 23.2$ は、前期比11.6ポイント上昇し、価格低下基調を弱めている。仕入価格判断DI $\Delta 34.9$ は、前期比4.5ポイント上昇し、価格上昇基調を強めている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
残業時間	-10.9	-17.4	-0.1	-25.6
人手状況	8.7	-10.9	7.0	4.7

残業時間判断DIは $\Delta 0.1$ と、前期比17.3ポイント上昇し、残業時間が減少したとする企業割合が17.3ポイント減少した。

人手過不足判断DIは7.0と、前期比マイナスからプラス水準となり、人手過剰感を強めている。

□ 設備投資の動き

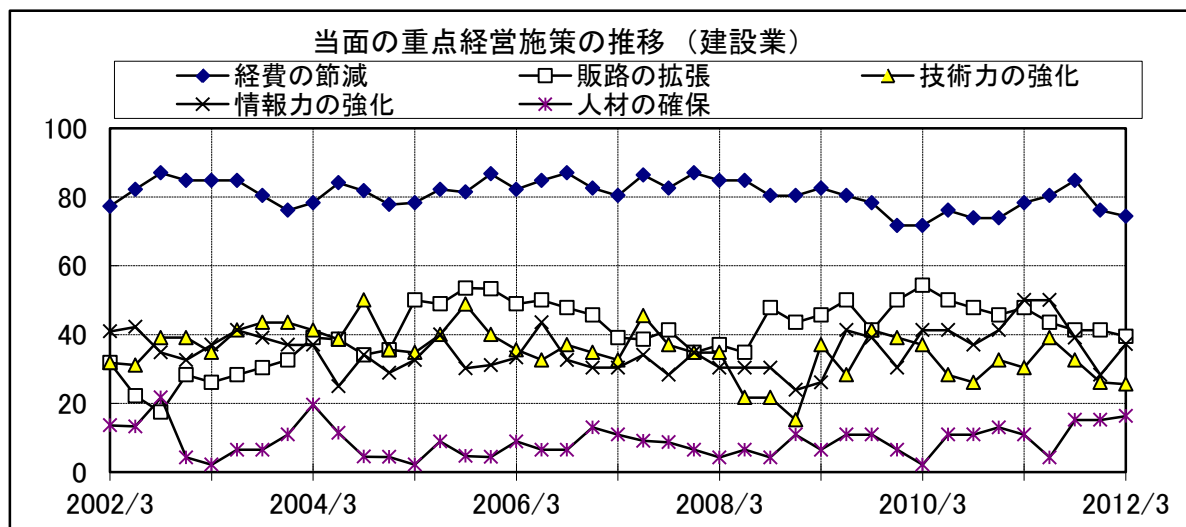
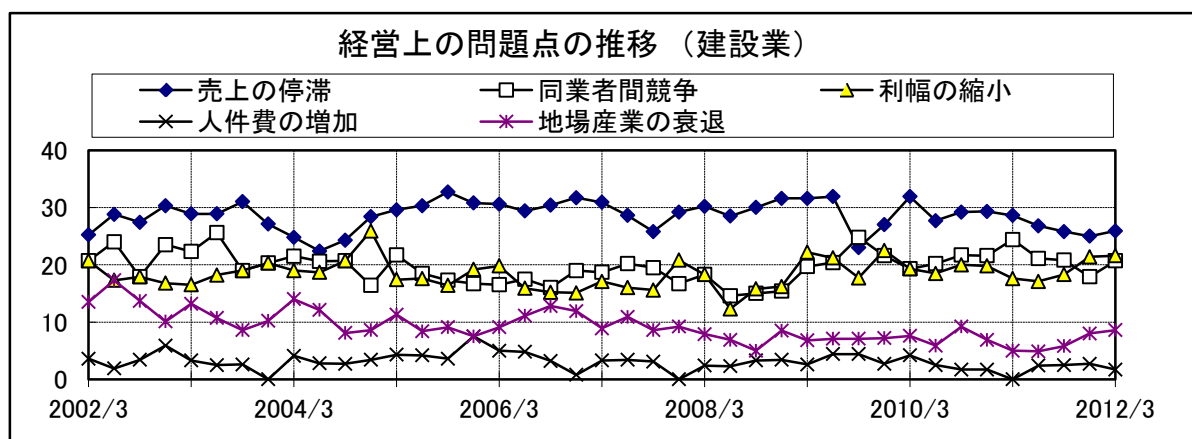
設備投資の充足感を示すD Iは、前期△10.9から10.9ポイント上昇し、ゼロ水準となった。適正と回答した企業は81.4%と、前期76.1%から5.3ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は20.9%と、前期23.9%比3.0ポイント下降、件数で前期の11社に対し9社の実施となった。来期の設備投資は、当期と同数の9社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」をトップに挙げ25.9%、次いで「利幅の縮小」21.6%、「同業者との競争」20.7%、「地場産業の衰退」8.6%の順に続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ74.4%、次いで「販路の拡張」39.5%、「情報力の強化」37.2%、「技術力の強化」25.6%、「人材の確保」16.3%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D I △51.2 は、今期△39.5 と比べ 11.7 ポイントの下降見通しとなっている。

予想売上額判断D I △23.2 は、今期△41.8 と比べ 18.6 ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D I △32.6 は、今期△55.8 と比べ 23.2 ポイントの上昇を見通している。

予想請負価格判断D I △11.6 は今期△23.2 と比べ、11.6 ポイント上昇し、価格低下基調が弱まる見通しとなっている。一方予想仕入価格判断D I 27.9 は、今期 34.9 から 7.0 ポイント下降し、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

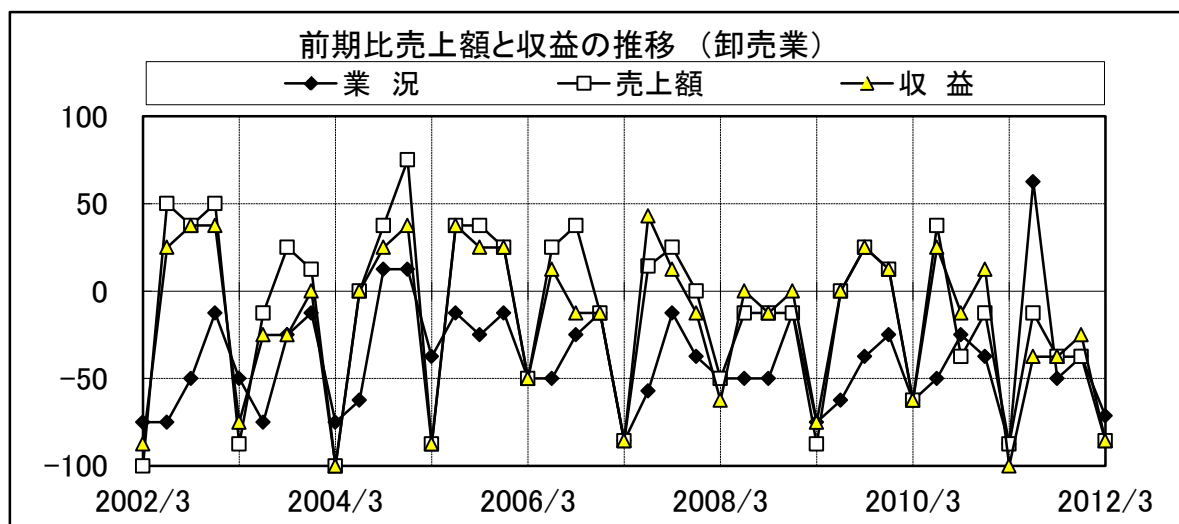
卸売業7企業（回答率100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
業 況	-50.0	-37.5	-71.4	-42.8
売上額	-37.5	-37.5	-85.7	-14.3
収 益	-37.5	-25.0	-85.7	-14.3

今期の業況判断DIは $\Delta 71.4$ と、前期比33.9ポイントの下降となった。地区別にみると、三石、様似地区は下降、他の地区は横ばいとなっている。

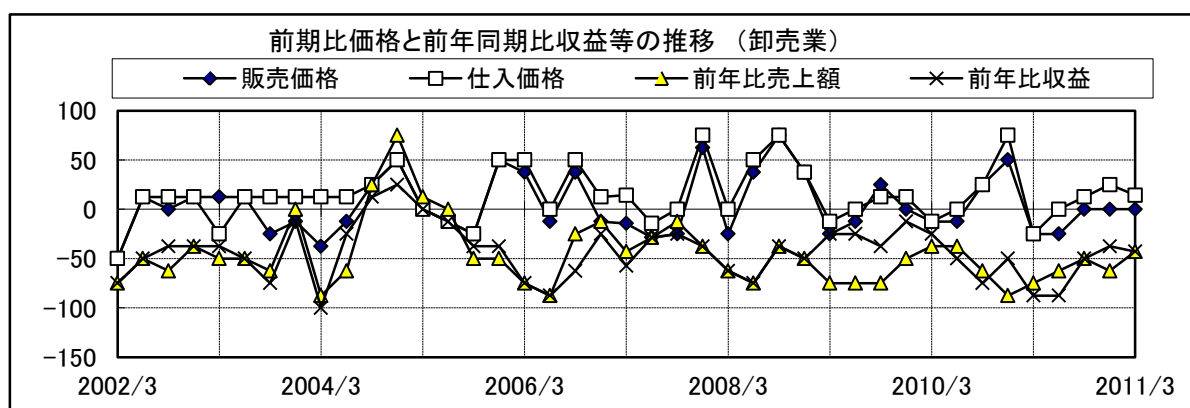
売上額、収益判断DIは、ともに $\Delta 85.7$ で、それぞれ前期比48.2ポイント、60.7ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
販売価格	0.0	0.0	0.0	28.6
仕入価格	12.5	25.0	14.3	42.9

販売価格判断DI0.0は、前期比横ばいで推移。仕入価格判断DI14.3は、前期比10.7ポイント下降し、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、販売価格は水産、食品で横ばい、仕入価格は水産で下降、食品で上昇している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
残業時間	-25.0	-12.5	0.0	-14.3
人手状況	25.0	12.5	14.3	28.6

□ 設備投資の動き

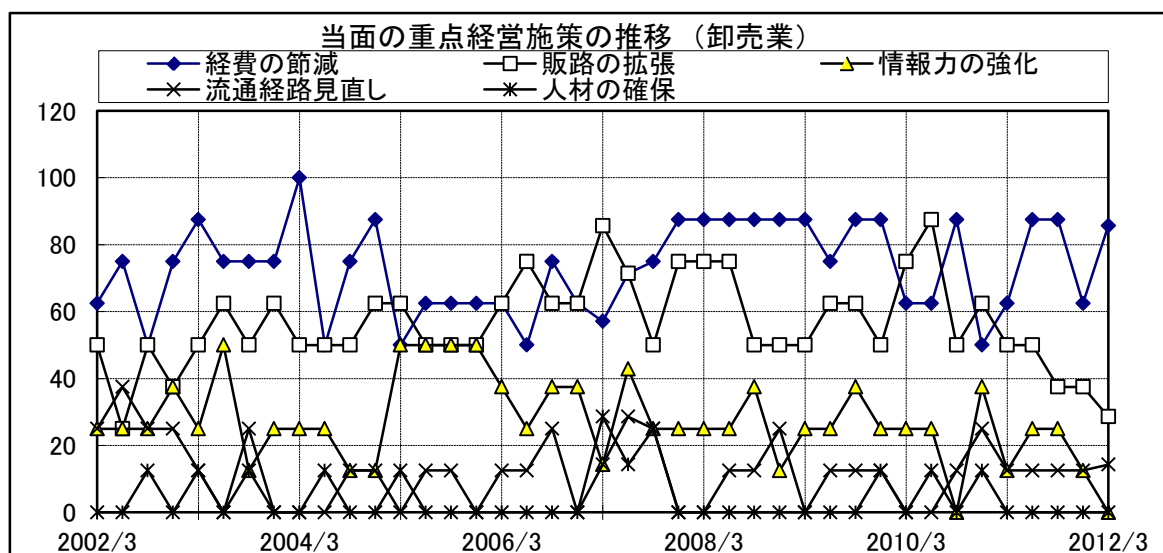
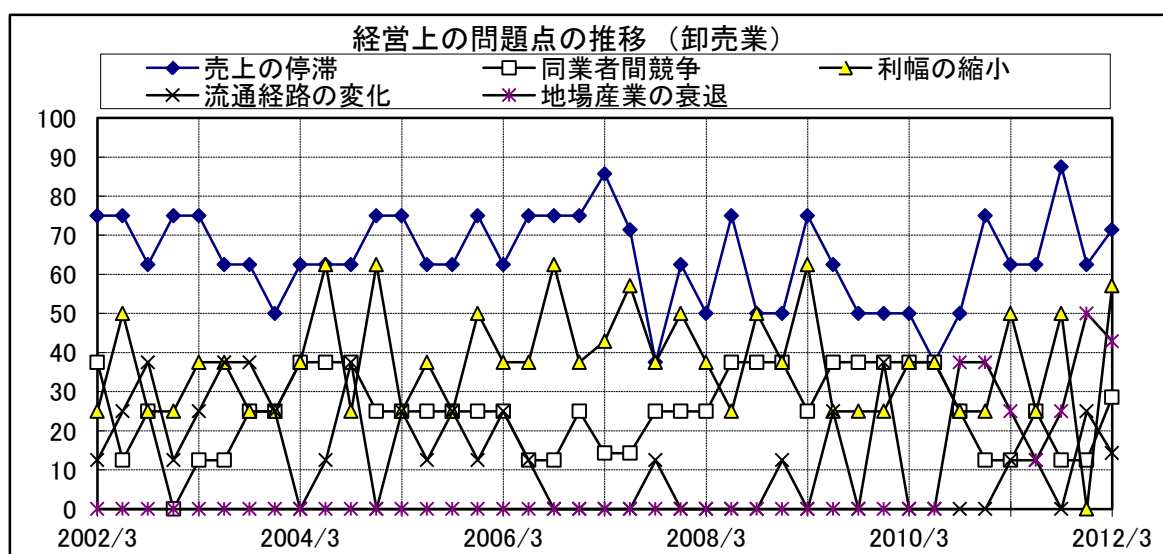
設備投資の充足感を示すD Iは14.3で、前期12.5から1.8ポイント上昇した。適正と回答した企業は85.7%と、前期87.5%から1.8ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は、0.0%と前期12.5%比12.5ポイント下降、件数で前期1社の実施に対し0社となった。来期の設備投資は、0社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」71.4%、「利幅の縮小」57.1%、「地場産業の衰退」42.9%、「取引先の減少」、「同業者との競合」28.6%と続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ85.7%、次いで「販路の拡張」28.6%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D I Δ 42.8は、今期 Δ 71.4と比べ28.6ポイントの上昇見通しとなっている。予想売上額判断D I Δ 14.3は、今期 Δ 85.7と比べ71.4ポイント上昇の見通しとなっている。同様に、予想収益判断D I Δ 14.3は、今期 Δ 85.7と比べ85.7ポイントポイント上昇し、価格低下基調が弱まる見通しとなっている。一方、予想販売価格判断D I 28.6は、今期0.0と比べ28.6ポイント上昇見通しとなっている。予想仕入価格D I 42.9は、今期14.3と比べ28.6ポイントの上昇で、価格上昇基調が強まる見通しとなっている。